



## 音読を中心に英文を定着・発信へとつなげられる!

2010年より神奈川大学の大学院で久保野雅史先生に指導を受け、音読をベースにアウトプット活動へと発展させる指導方法を学びました。『英語を自動化するトレーニング』には音読練習の工夫が随所に見られ、効果的に学習をさせられると思いました。1年次に単語の発音や音変化の基礎的な練習を行い、2年次ではその基礎知識を使い、英語らしい発音で音読をさせることを目標としました。

授業ではタスクに従って語句の確認から始め、内容理解が十分できたところで音読練習に入りました。ナレーションが非常にリズムカルでモデルとして優れており、オーバーラッピングやリード&ルックアップなどを取り入れて練習。また、ペアでリッスン&リピートなども行い、相手に分かりやすく発音することも意識させました。音読や暗唱テストを実施するので、自学では主に音読の練習を行わせています。音読のテストは全員の前で行い、お互いに評価し合うことで友達の良いところをお手本として自主学習にも生かせたと思います。これからは題材についてペアでQ&Aを行わせ、行間を読ませるなど深く読み取る活動を取り入れてみたいと考えています。また、口頭練習で言えるようになった文を正確に書くことへとつなげていきたいです。

## ! 最も指導に役立ったこと

さまざまなタスクで、英文を自然に発話できるように指導ができる

### 教材の使用方法について

#### ○授業と自学で使用

4月から7月に週3回、英語Ⅱの授業の冒頭5

~10分間で使用

### テストの実施方法について

#### ○1回の範囲

1Unit

#### ○問題の種類

音変化とリズムに注意して音読テストを実施